

唐詩選畫本

七言絕句

三

冊數	書名唐詩選畫本	函號	部類
四		架一二三	詩文

三六號



書影圖式



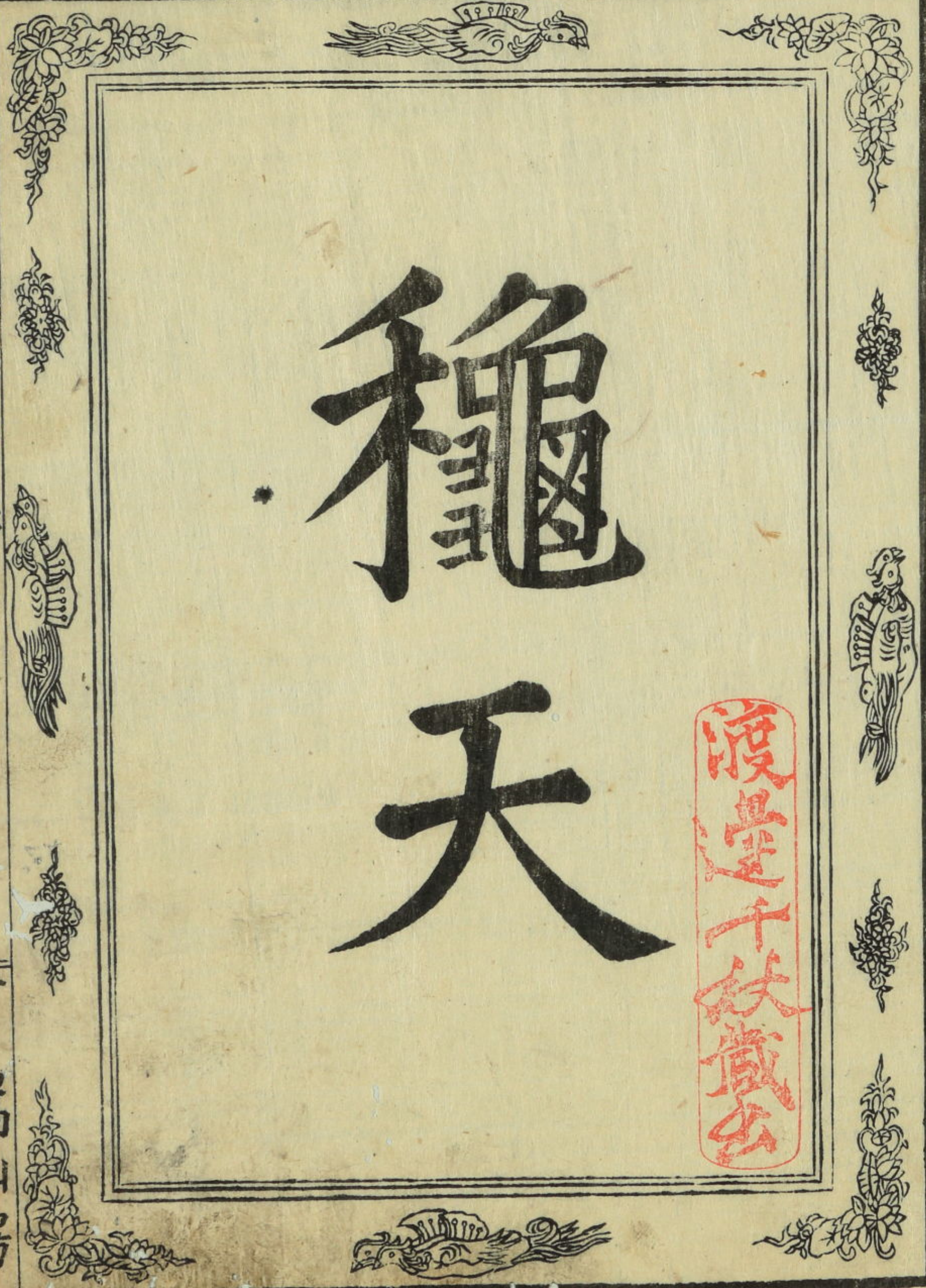
種天

渡邊千代藏

唐詩經

卷之三

詩經





悲いものちハるもあとかげきあろ
 まゆ〜〜〜〜〜
 の京と志のそめ〜〜〜
 じん〜〜〜〜〜
 めうなみや〜〜〜
 おりて足のそめ〜〜
 きたる〜〜〜
 くびや〜〜〜
 けうがのあのかう〜
 外のもかれ秋の〜
 たるの〜〜〜
 馬にのり〜〜
 であろふな〜
 ときあ〜〜
 ちか〜〜
 あり〜〜
 あり〜〜



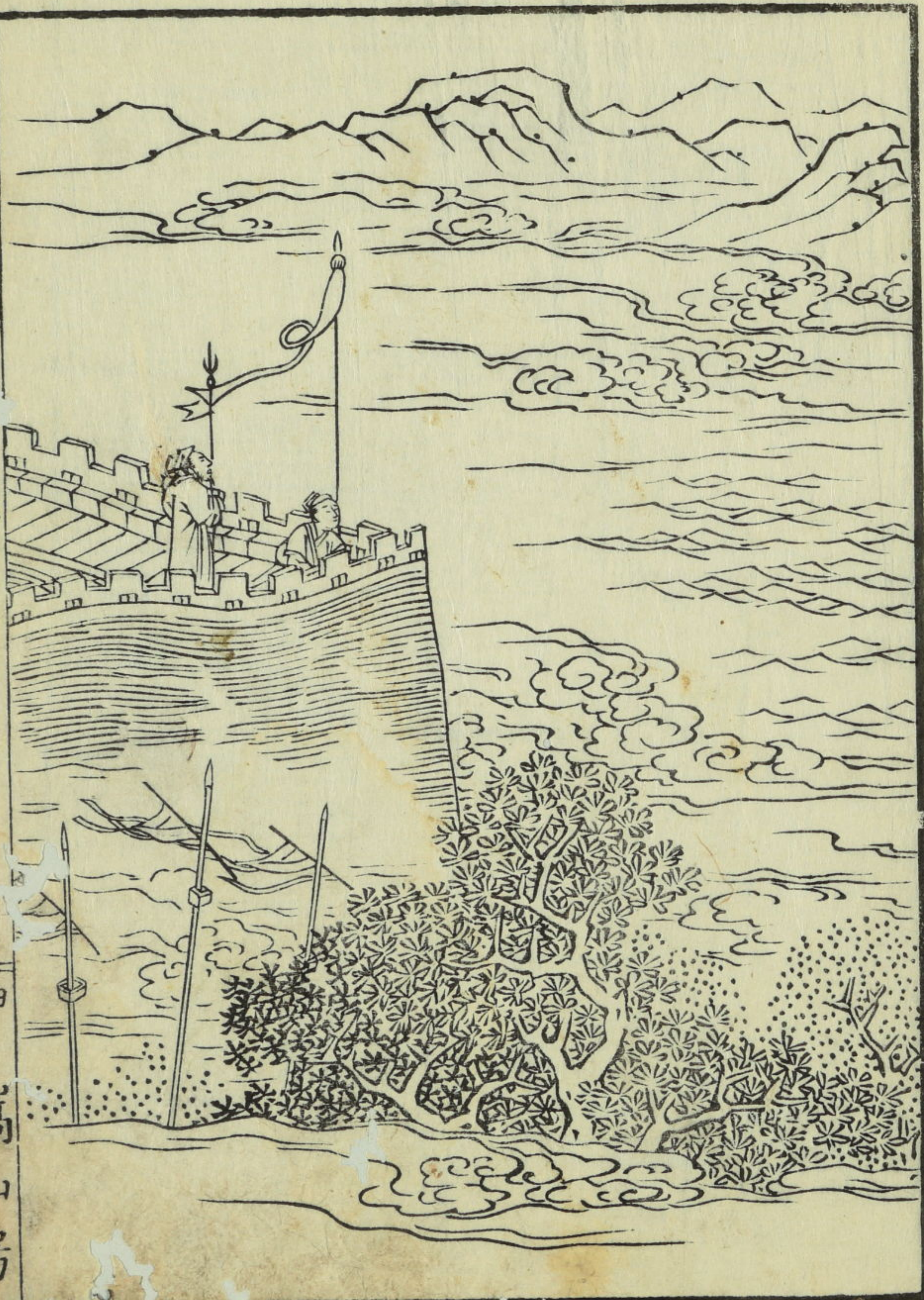
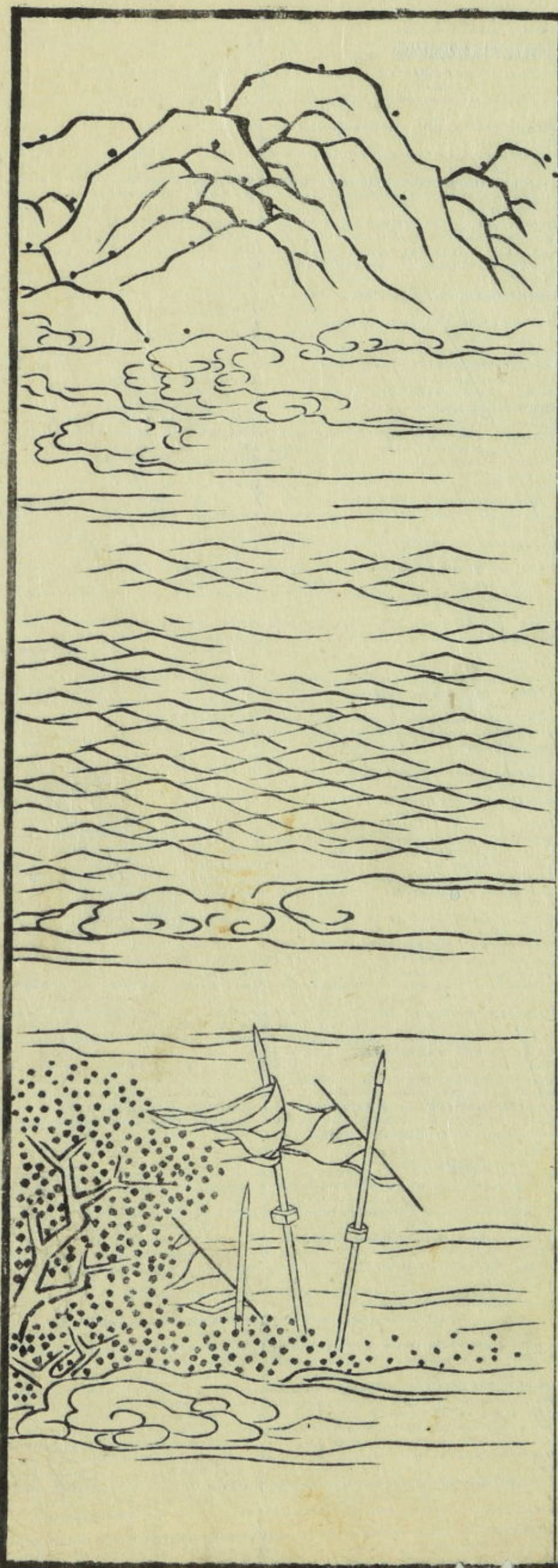
出塞行
 王昌齡
 白草原頭
 望京師黃
 河水流無
 盡時秋天
 曠野行人
 絶馬首東
 来知是誰

從軍行

王昌齡

青海長雲暗，雪山孤城遙。
望玉門關，黃沙百戰穿金甲。
不破樓蘭終不還。

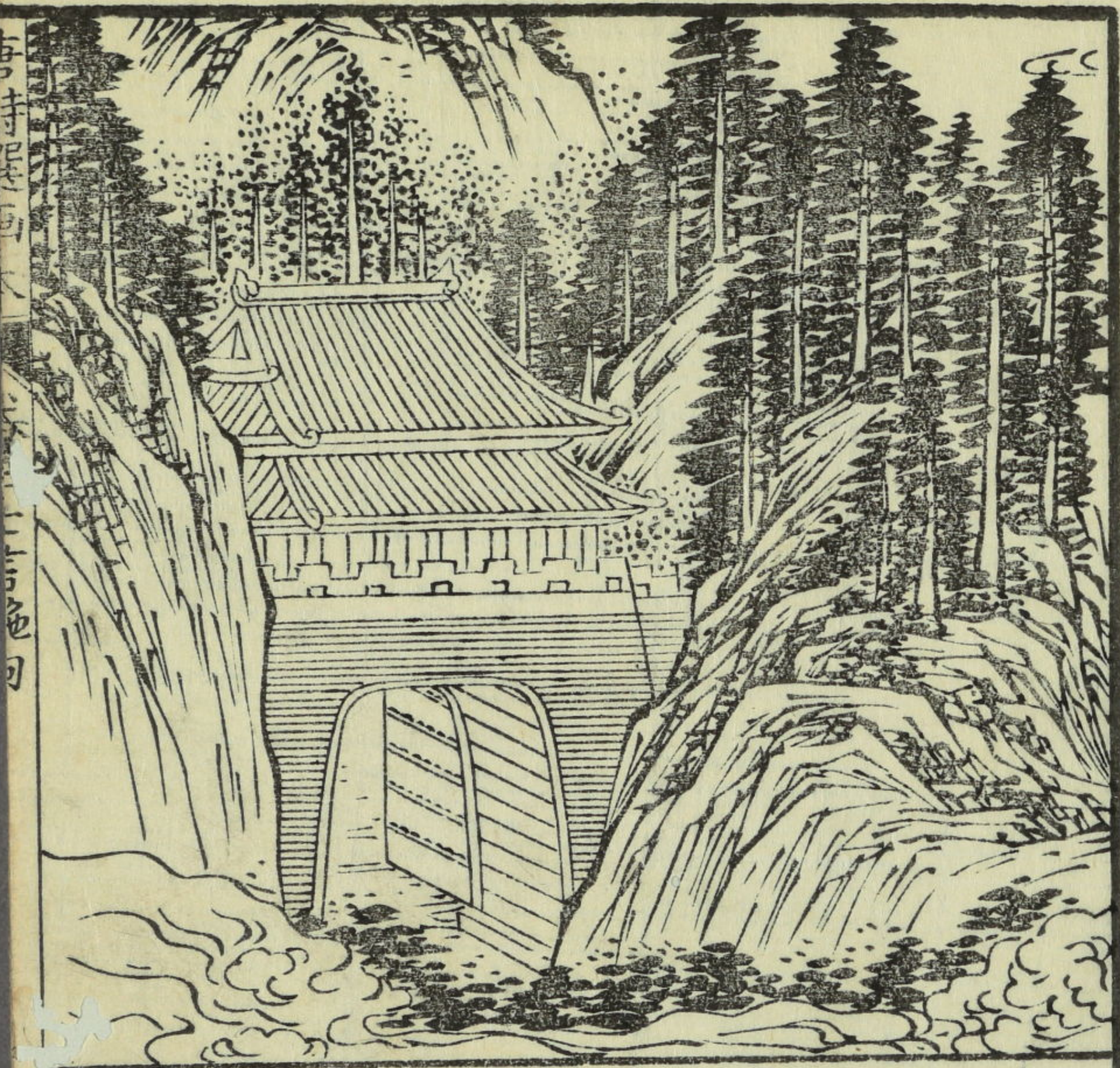
このあらより見ればたゞひるしうてまふきていひ多ひまのちせいりのまふかれいふがたうたふびてせうきんまそ
もまのちらにてまのすくまふまきくらん西北のまきでとをい知やれをれをぬりてまことといこのをん
このまのいりこちまうあきらまきて又玉門山のをむまこととい都いひく遠い。まやをてたひるせんうある四ま
いとぬまふかひいぬあていりりまきまのむだちあいらうらんまやうあまをすいかあぬてあろふかあろふかひいば





從軍行

秦^え時^ト明^の月^{けり}
漢^く時^の關^{かん}萬^{まん}
里^り長^{ちやう}征^{せい}人^{ひと}
未^ま還^{くわん}但^た使^し
龍^{りゆう}城^{じやう}飛^ひ將^{じやう}
在^あ不^ふ教^{きやう}胡^こ
馬^ば度^た陰^{いん}山^{さん}



いかにしめずあんなのおやんも
まこといふちひみちもふい
をりてくせい。てうせしと
いふときつてせめてもあ
そのときもうんはきこもが
けめいげつとんてこきまのめ
とひひかみみひの時もきて
たふんえんうりこころあ
よのがよいやくよの大ねたひ
かこぶがねとあかるとたふ
ひすのおやういさうこのふ
ないとかあふ胡人がから
らちひやこころあふいよ
たねのちいせいひふいほ
北の解屋解屋くさるる
にぬありとをむ

河内苑

梁園秋竹古時烟

城外風悲歎

暮天萬葉

旌旗河處石

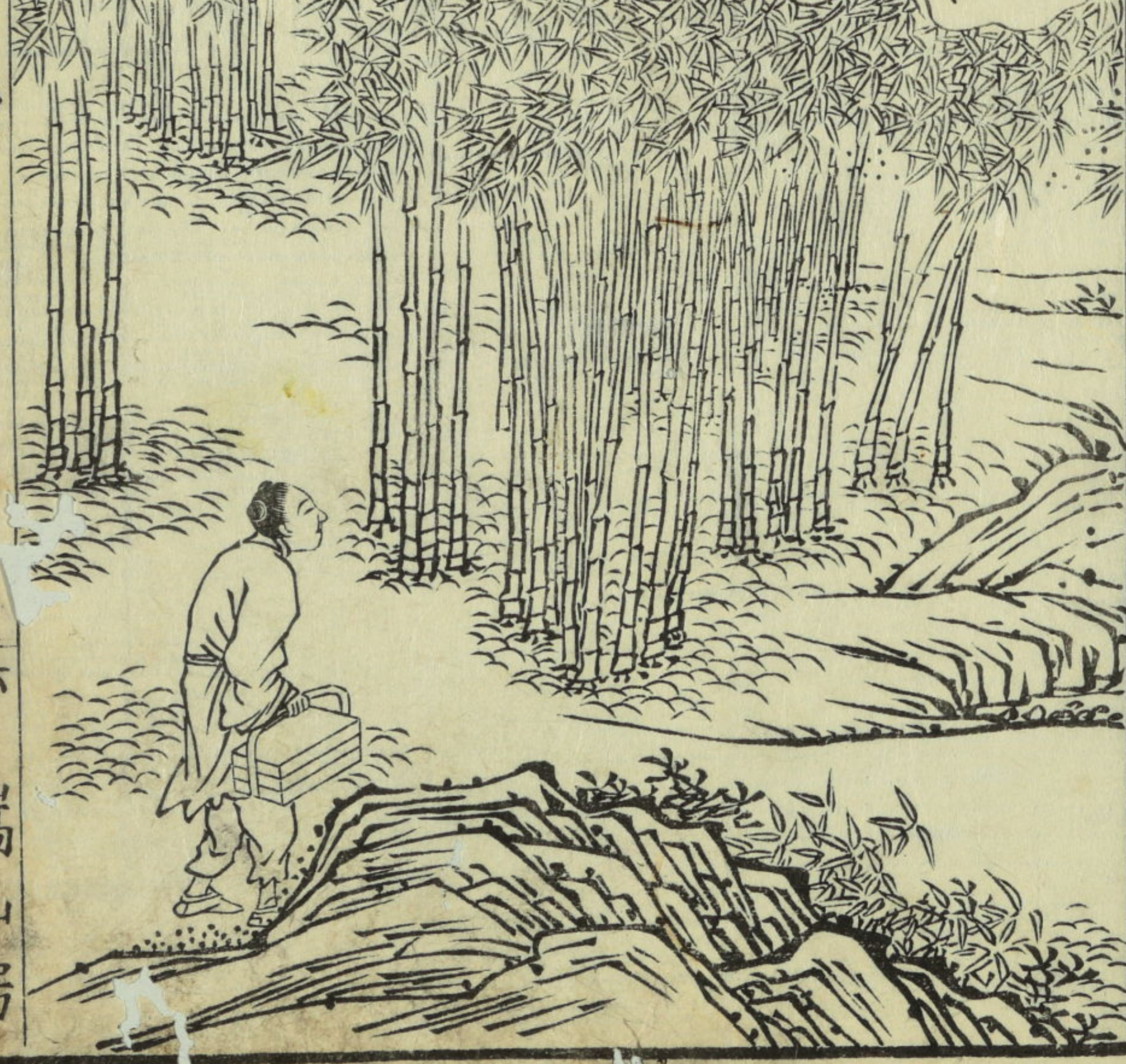
平臺賓客

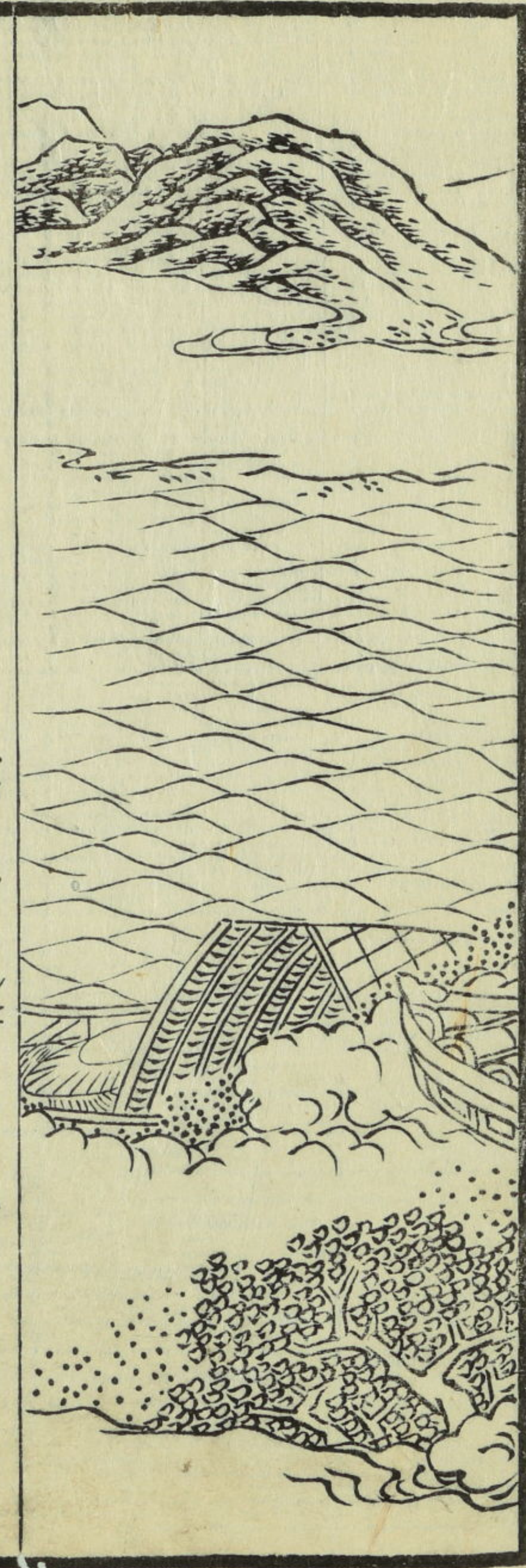
有誰憐

王莽の多人の竹は古時孝王の
のまゝあいかさすをまげつて
あるまゝりて古時のけいさ
のとありドマナウあらの竹
けつこゝかこことあつらふ



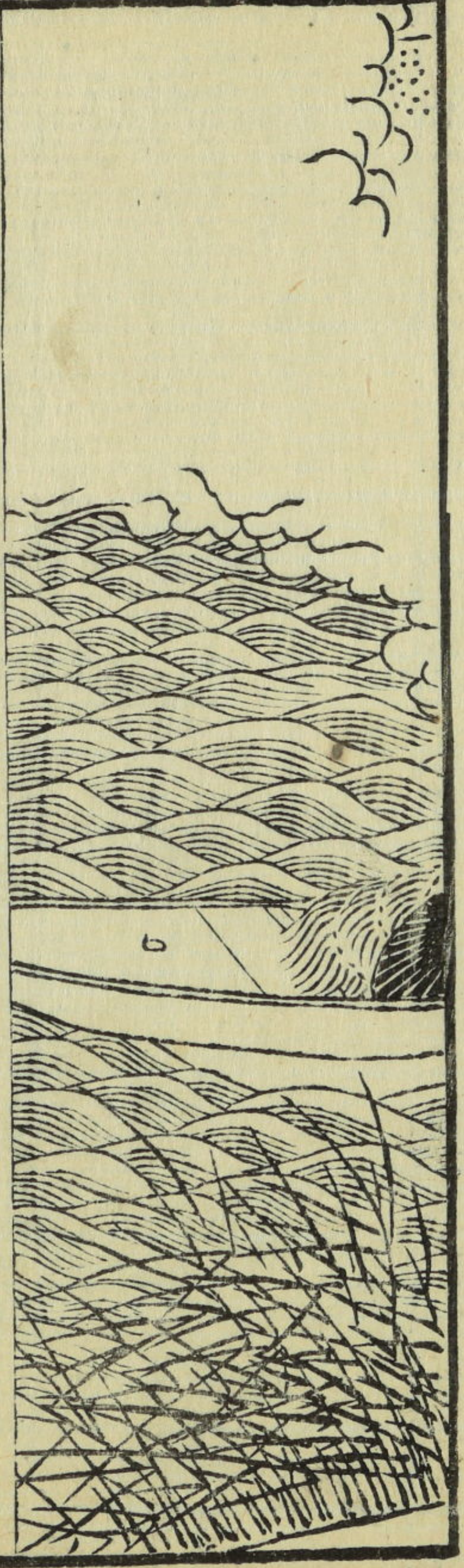
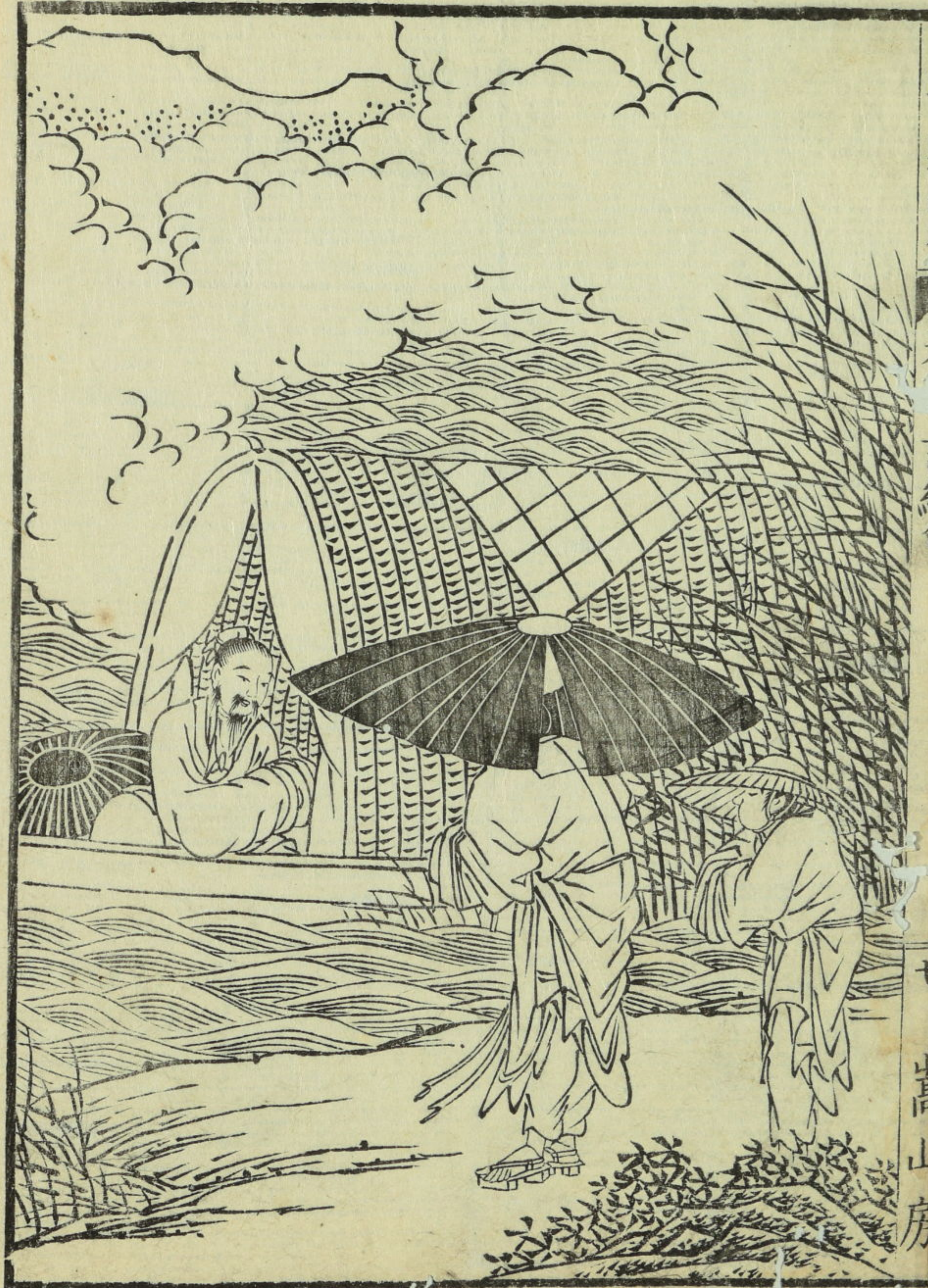
城のいよをれはくれにあり
のまのまごの風がふいて
あれをそくまのうらゝいふ
孝王のまゝなるとき天子
どうもんであつてあつて
一のまねとなつて
つごかやハあとかもなひま
まゝハ相如鄒陽とき
のびんぞんさいと
むくへあいせ
いふが孝王のとき
ひとあはれれ
相如などの
まらひられや
たうり
掌故ノ講釈本と
なる





芙蓉樓送辛漸 王昌齡
 寒雨連江夜入吳 平明送客楚山孤 洛陽親友如相問 一片冰心在玉壺

此詩王昌齡送辛漸之芙蓉樓也。芙蓉樓在揚州。辛漸，吳越人。王昌齡，江寧人。此詩見於《唐詩集解》卷之四。詩中「一片冰心在玉壺」句，最為人所稱道。此句之妙，在於以冰心喻其心之清白無瑕。且其語氣平淡，而意蘊深長，誠為送別詩中之極品也。



送薛大赴安陸

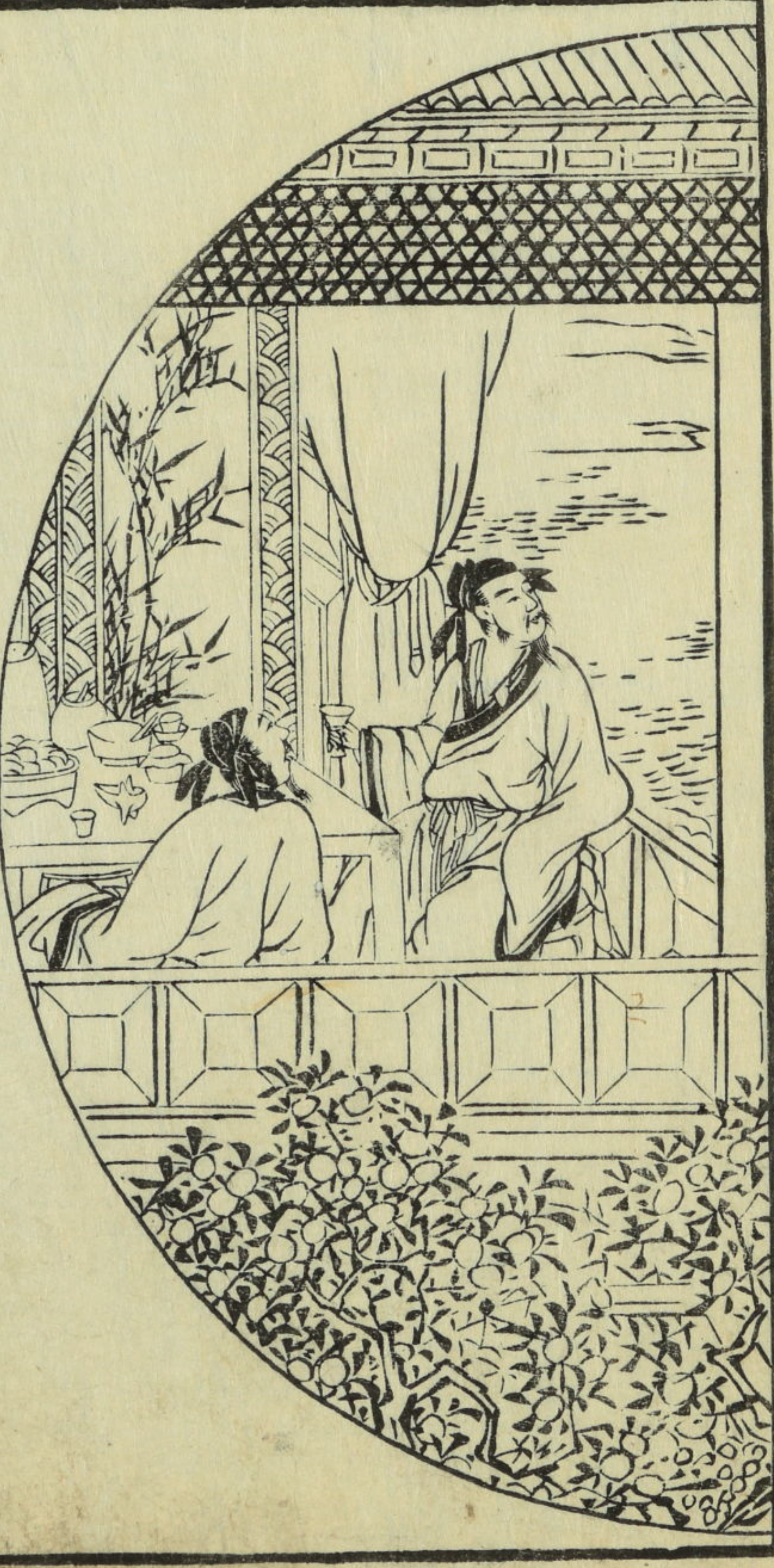
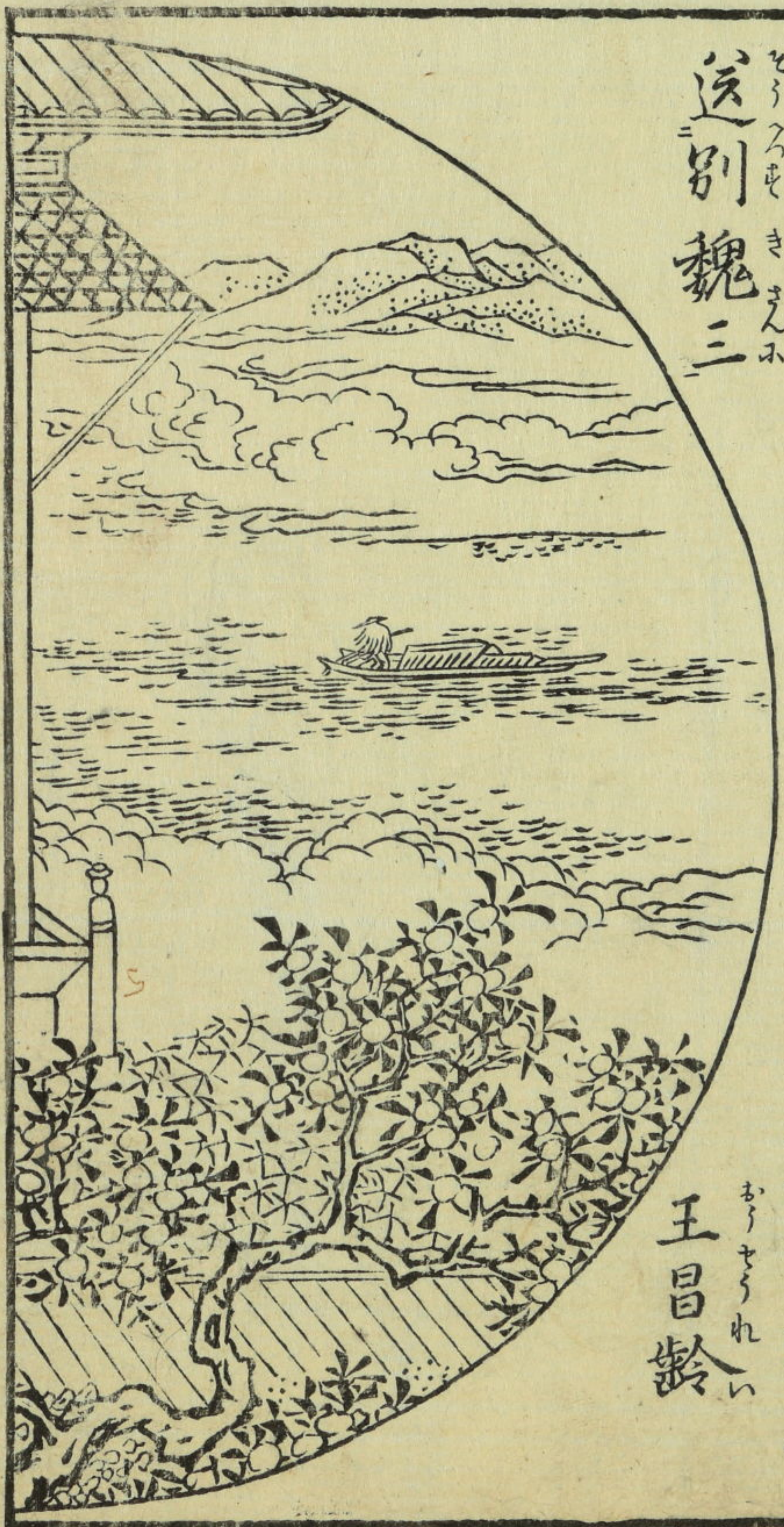
王昌齡

津頭雲雨暗 湘山遶客離
 憂楚地 遙送扁舟安陸郡
 天邊何處穆陵關

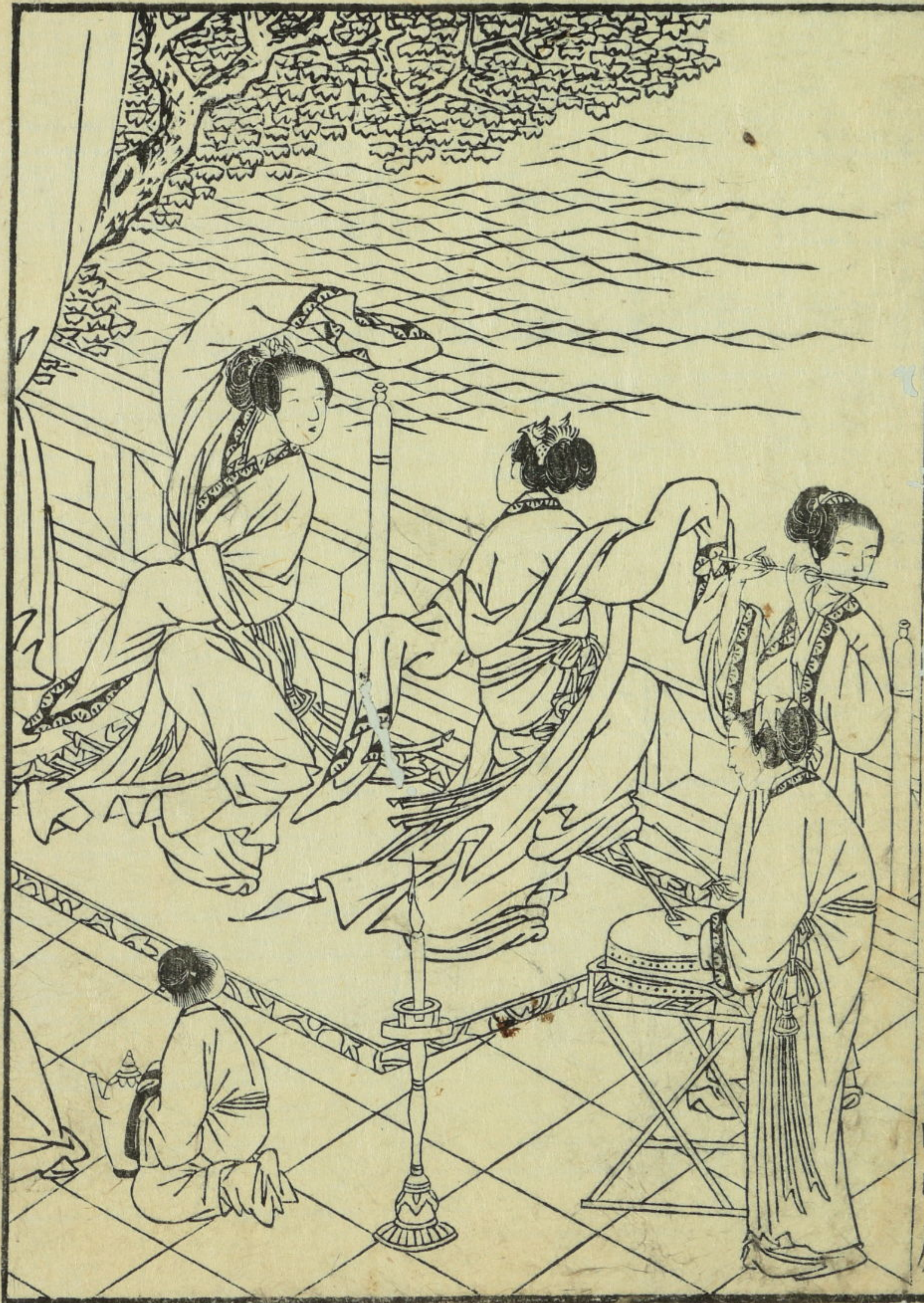
今二行...とある...
 又之ぬをちの久ををとい楚辭でいふれいおわるといふる...
 見れさそんの方なれいこのそらるのちに影を惟衰の境を...
 リくゆくおあさるるやあなうか...
 今二行...い妙也...

醉別江樓橘柚香江風引雨入船涼
 憶君遙在湘山月愁聽清猿夢裡長
 送別魏三

王昌齡



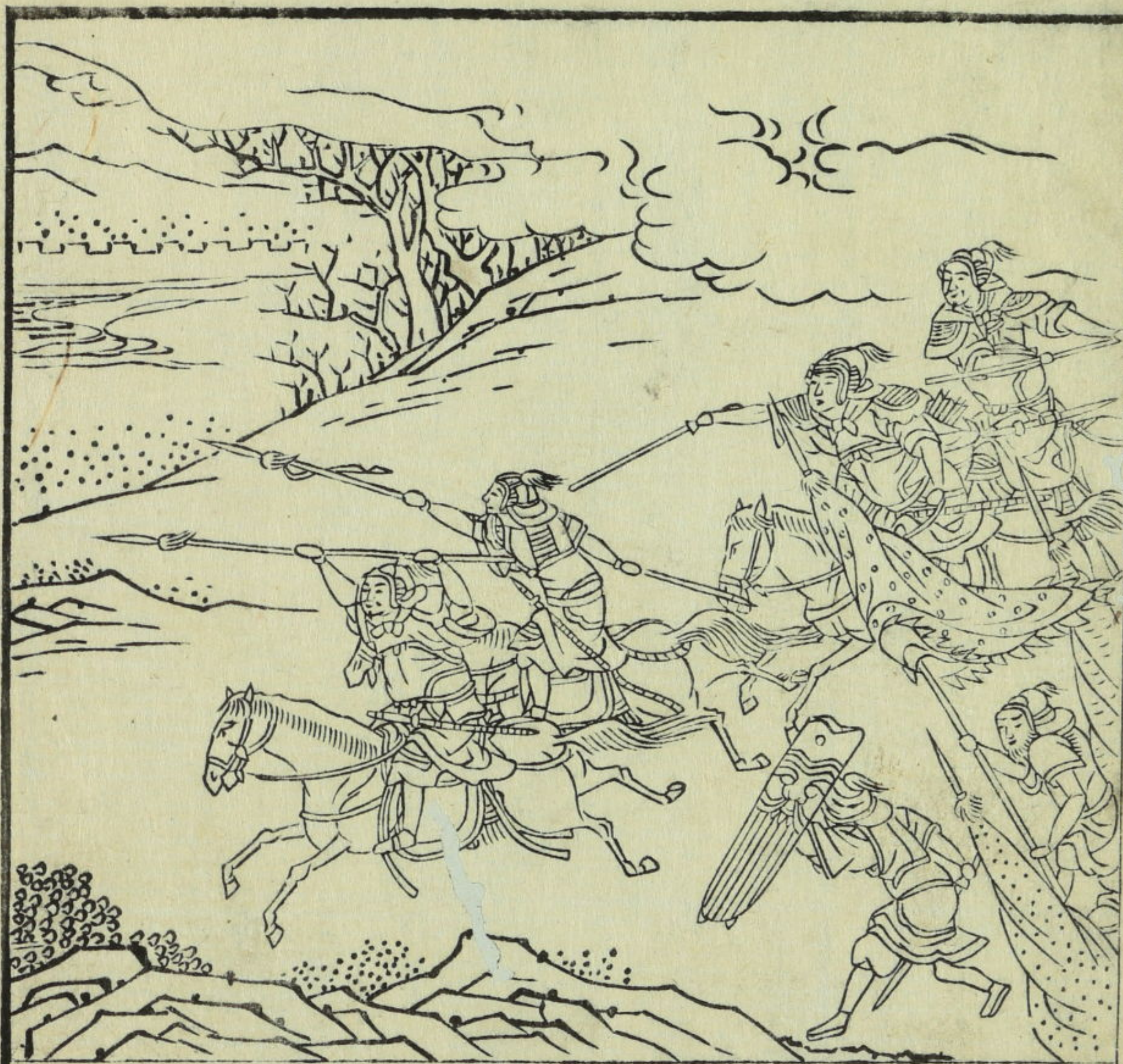
今世の文藝は、その中に、
 由緒の正しきものありて、
 あらゆるものありて、
 ことごとく、
 するべきものありて、
 又ハ講釈の本を、



重別李評事
 莫道秋江離別難
 舟舫明日是長安
 吳姬緩舞雷
 君醉隨意青楓白
 露寒

王昌齡
 君醉隨意青楓白
 露寒

重別李評事
 莫道秋江離別難
 舟舫明日是長安
 吳姬緩舞雷
 君醉隨意青楓白
 露寒

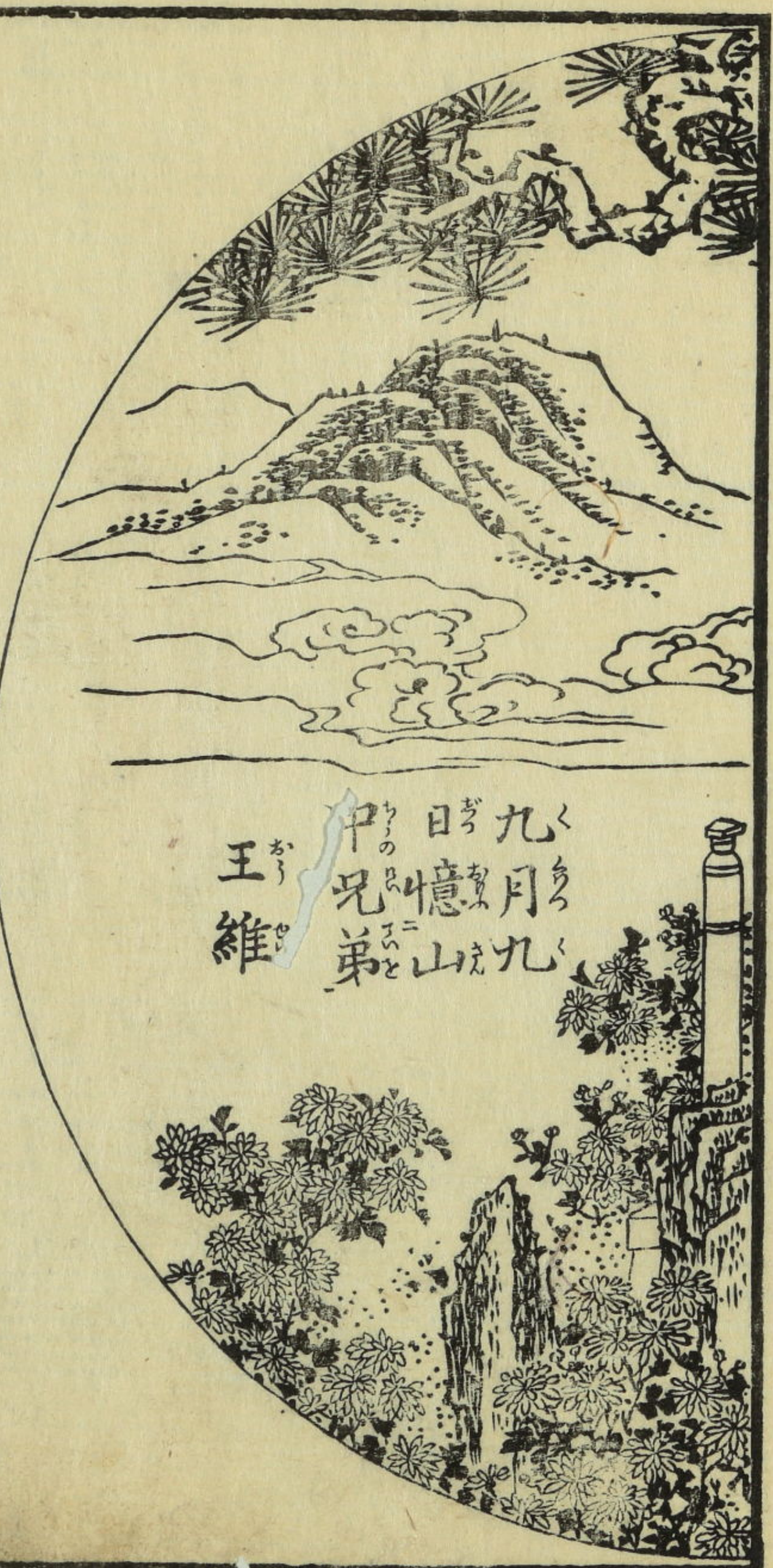


少年行
 出身仕漢
 羽林郎初
 随驃騎戰
 漢陽孰知
 不向邊庭
 苦從死猶
 聞俠骨香



少年行
 出身仕漢
 羽林郎初
 随驃騎戰
 漢陽孰知
 不向邊庭
 苦從死猶
 聞俠骨香

獨在異鄉為異客 每逢佳節倍思親
遙知兄弟登高處 遍插茱萸少一人



九月九日
憶山東兄弟
王維

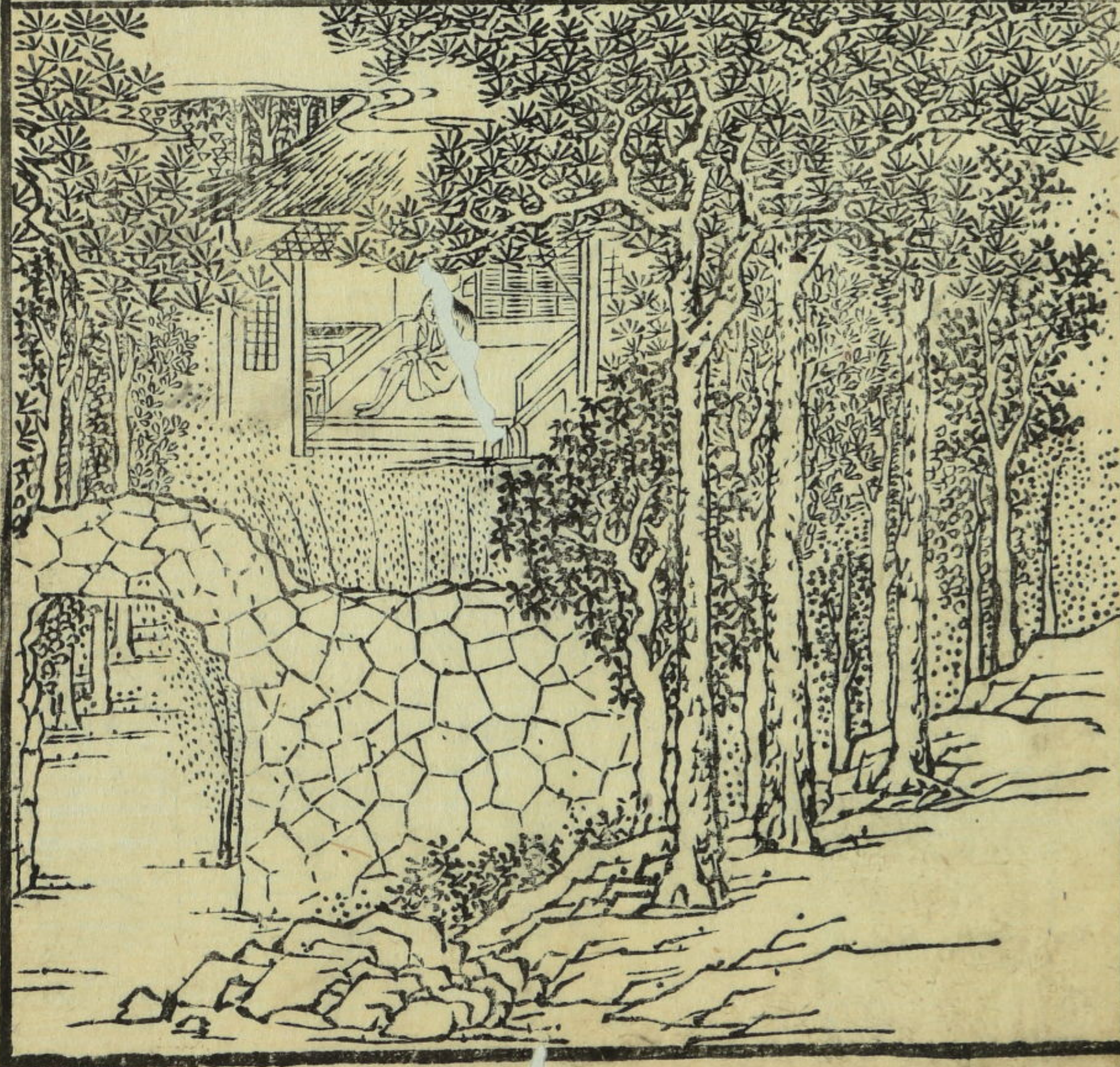
たうにいづつかり 祈なり おうが十七歳のときのおやきうたいのこころに
にむにそれいりたうのいかしなりたひすむひとやかおのひいたま
九月にこのめであいのふさけなをのんてりであらふがそれいりたうのこ
でかけてるおやきとあてりやとあてりやとあてりやとあてりやとあてりや
とあてりやとあてりやとあてりやとあてりやとあてりやとあてりやとあてりや

與盧員外象過
崔處士興宗林

亭 王維

綠樹重陰蓋
四隣青苔日
厚自無塵料
頭箕踞長松
下白眼看他
世上人

さあきよーハクせんにつのせやま
ーきなまとのやうかとしらうとが
こころつくりうくあまがいくる



とまけりてましのとならうもあ
ろががまよくあゆがわさああ
みぬまろふかこるやにどのせい
あむらさあむひのあまき
たまそちちせねあつちちりも
たぐけだきんあめさな人ハハ
あまぬことうちあみさふき
よとハはとふこのあてりるなる
ふりりかひとてよれぬさく
あゆりもさむらじがなせねの
こいにあとたなけしてりる
にあんにあまをぬきまははや
あせけんのまのいりもまはら
ここのかなるれハ白服つけて
ひりあふたきあきするもの
もあひ
せうこせあちうし
くハ学故は佳國字解
片いあま山房にともあは
○又唐詩選講釈も



送韋評事

王維

欲逐將軍取右賢
 遙知漢使蕭關外
 愁見孤城落日邊
 走馬向居延

欲逐將軍取右賢 志を遂げて將軍を討つこと
 遙知漢使蕭關外 遠く漢使の蕭關の外に
 愁見孤城落日邊 愁んで見よ孤城の落日の邊に
 走馬向居延 走馬して居延に向ふ

此詩は、唐の邊境に於ける漢使の蕭關の外に、遠く漢使の蕭關の外に、愁んで見よ孤城の落日の邊に、走馬して居延に向ふ。



